

## 第3号

有明工業高等専門学校

〒836・大牟田市東萩尾町150

Tel 09445 ③ 1011

印刷・西田印刷所

## 有明高専だより

## 「情報化時代」に備えて

木村剛三

情報化時代とか、情報化社会とか、情報は一つのテーマになりました。そして先の高専祭に於ける北川教授の記念講演によりさらにその意義と重要性について認識を新たにしたのであるが、学校としては重要性を認識するだけで無意味であって具体的なカリキュラムの内容に情報を取り入れることこそ重要である。

そこで高専として何のような内容が考慮されるべきであろうか。一口に「情報」と言ってもその意味はかなり複雑として広く、例えば昔々の以前からの歴史である図書館は巨大な情報の集積所であり、官庁や、会社における書類や伝票は情報の流れとなることが可能である。しかし今日、「情報」が重要視されるゆえんは最近急速な発達を遂げたコンピューターとの関連によるのである。

コンピューターも大型機どちらかは人間が手計算で一年かかる計算を一分以内ですることもできよう。また、近く姿を現わすであろう超大型機では従来の入出力装置能であるという。それ故にこの怪物のようなコンピューターに振り

まわされずにうまく使いこなすことはこれから社会の繁栄にとって不可欠の条件であり、また学校にもコンピューターについての教育が緊急のこととして要請されることがある。そしてコンピュータには多種多様の用途があるため、学校でもその専門や段階に応じた教育がなされなければならない。

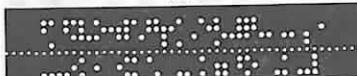
高専としては、当然、科学技術のための計算法をマスターすることは必要であり、そのためにはプログラムやアルゴリズム等の技術が重要な役割を果す。そしてこの点については本校だけではない。第三は設備の点である。計算機という機械を扱うのが目的である以上、その機械なしでは實上の水練のそりを免れない。そしてこの点については本校だけではない。ともし難いので文部省の適切な措置を希望する次第である。なお、具体的には、昨年、四年はさきにアルゴリズムによる論理回路の解析や、種々のダイオード、コアマトリックス、集積回路等の素子、すなわちハードウェアに対する知識がこれに加わる。そして余裕があれば、一般的な情報理論やシステム工学へと発展するであろう。

しかしながら、このコンピューターも学校のカリキュラムの軌道にのるためににはいくつかの障害を乗り越えなければならない。

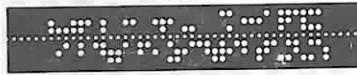
第一は現在でも盛り沢山の授業課目の方にどうやって割り込ませるかである。しかし、この点だ

テープにパンチした?

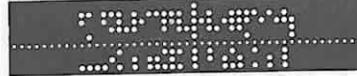
No.1



No.2



No.3



(解説9頁)

世はまさにコンピューター時代となり、情報文化時代とか言う新しい言葉が流行始めた。物凄い勢いで広がって来た。この波に対応するためにには情報教育

といふことを教育課程にも受け入れねばならぬ状態になって来た。

従来、電気工学科では選定科目として電子計算機の授業を毎週一時間実施していたが、今回さうにMECA四学科共同出資の形でN

H.K.コンピューター講座のフィルム26巻を購入したので紹介します。

この承知のように現在の点については本校だけではない。H.K.コンピューター講座のコンピューター、即ち電子計算機を使用するには、必ずプログラムを組むことが前提条件になっています。そのプログラムの仕事をするプログラマーミングの養成が本講座の目的です。本講

座は高校程度の学力でも充分理解

するためには情報教育

といふことを教育課程

にも受け入れねばならぬ状態になつて来た。

従来、電気工学科では選定科目として電子計算機の授業を毎週一時間実施していたが、今回さうにMECA四学科共同出資の形でN

H.K.コンピューター講

座のフィルム26巻を購入したので紹介します。

この承知のように現在

の点については本校だけではない。

H.K.コンピューター講

座のコンピューター、即ち電子計算機を使用するには、必ずプログラムを組むことが前提条件になっています。そのプログラムの仕事をするプログラマーミングの養成が本講座の目的です。本講

座は高校程度の学力でも充分理解

するためには情報教育

といふことを教育課程

にも受け入れねばならぬ状態になつて来た。

従来、電気工学科では選定科目として電子計算機の授業を毎週一時間実施していたが、今回さうにMECA四学科共同出資の形でN

H.K.コンピューター講

座のコンピューター、即ち電子計算機を使用するには、必ずプログラムを組むことが前提条件になっています。そのプログラムの仕事をするプログラマーミングの養成が本講座の目的です。本講

座は高校程度の学力でも充分理解

するためには情報教育

といふことを教育課程

にも受け入れねばならぬ状態になつて





## 見学、研修の感想

M 3 西山 修

10名ずつ3班に  
分かれてそれぞれ  
学校生活、勉強、  
就職について話す

1月22日、木曜 晴  
朝8時30分、「泊百の見学、研修旅行に出発。学生30名、先生方8名、計38名はバスで久留米へと向った。第一の見学地はBSタ

イヤ、筑後川に面した広々とした工場。少々臭をつく臭氣、意外に多い手作業。しかし、運搬関係は完全に自動化されていた。これらを見学した後、昼食をとり、鳥栖の九州工業技術試験所へ。背振の山々を背景に広々とした田畠の中に、できごとやつやく五年余りの試験所があった。まだ建物自体が整っておらず、これからとの感じ。

しかし、内部には色々な設備があり、内部には色々な設備がある。一寸圧倒された。この試験所では九州地域の一次産業振興、鉱物資源の有効利用、公害防止の研究などが進められていた。特にシラス土の利用化が目をひく。

これらの施設は四月に一般公開するとのことだった。川上駅付近の静かな山懐に青年の家の瀟洒な建物があった。入所式の後、部屋に入り、落成式である、佐賀県青年の家に向った。川上駅付近の静かな山懐に青年の家の瀟洒な建物があった。

これらの施設は四月に一般公開するとのことだった。川上駅付近の静かな山懐に青年の家の瀟洒な建物があった。

それに対する先生方の考え方を聞きながら、本当に勉強ができるのではないか」という話しが頭に残った。第一回はその様にして終った。

1月23日 金曜 雨のち曇

朝からしんどとした雨。朝食後、研修。まず開拓裏をかこんで就職について話し合った。我々が今後どんな仕事をしていく、又どんな方向に学習を進めていくかについて、互いに意見を交わした。そこで感じたのは突然とした生活による学力不足に起因する大きな不安であった。社会に巣立つてから今までの生活には甘えがあり、つまらぬ無駄な時間を余りに過ごすのが何よりも悔しい。そこで、次に学校生活について話し合った。

これらの話し合いで、少なくとも今までの生活には甘えがあり、つまらぬ無駄な時間を余りに過ごすのが何よりも悔しい。そこで、次に学校生活について話し合った。

## 新年の同窓会

第一期生 勝田記

嬉しい卒業生諸君と会うのは実に嬉しい。この人間関係にひかれ、教師を勤める人が多いことを世間の人は知らないようだ。薄給でも、在校生、卒業生がたずねてくれると一緒に若い気になって駄弁るのが先生だ。

講義が難しかったとの話は聞くが、点が辛かった話は聞かない。卒業すれば、それは思われるする山登のよみむじぶらしい追憶が忘却の淵に沈んだ過去なのである。そして話は専らいま何をしている

貴重な存在である。

本機の特色は蛍光発光分析が励起原子やイオンの発光を捕えるのに対し、押発した基底状態の原子の反転吸収スペクトルを測定する。

原子吸光分光度計近く設置

？というお互いの情況交換になる。

その会が大牟田市大正町の喫茶店嘉で、正月三日16時から開かれました。招待されて清水先生と私が出席したが、出席者22名は卒業生の三分の一である。意気投合、親友再会、実に仲の良い学級であって嬉しかった。

人数と時間の関係もあって十分

懇談が尽せなかつたようだ。以下

敬称略で近況をお伝えするが、補足、正誤、その他他伝えたいことがあれば書って学校便りに投稿して下さい。

常識で済む安易なことだけではない。技術革新の時代だ。単結

かんな。技術革新の時代だ。単結

かんな。技術革新の

(7面より)  
に負けないを目標としていた  
経験。

龍野一 去年は引越した私の  
新居に新年のあいさつに来てくれ  
た一人。一年振りだが話をする機  
会がなかった。弓削、龍野一人共  
に競争して立派な友人同志にな  
りたがいい。

が、弓削、龍野一人共

修学旅行計画

細かい点はまだ決まっていない所  
もあり、また詳しい変更があるかも  
知れないが、一応の予定を発表  
します。

同窓諸君との交歓がござれば、  
修学旅行をさらに意義あるものと  
おもふに信じます。

一、参加学生  
機械、電気、化學の四年生  
品川、辻、穴山、木村、竹下  
勝田  
勝  
三、日程  
4月20日(月)  
8時15分(10番め)大牟田発  
18時10分 都区見学 京都泊  
4月21日(火)  
午前 神奈見学 京都泊  
午後 万国博見学 京都泊  
4月23日(木)  
午前・後 京都見学 京都泊  
午後 横浜マリンタワーで昼食  
工場見学 いすゞ川崎工場  
午後 機械  
電気  
花王石鹼川崎工場

註 20日の京御所は(室)に  
変更の可能性あり。

修学旅行計画

細かい点はまだ決まっていない所  
もあり、また詳しい変更があるかも  
知れないが、一応の予定を発表  
します。

同窓諸君との交歓がござれば、  
修学旅行をさらに意義あるものと  
おもふに信じます。

一、参加学生  
機械、電気、化學の四年生  
品川、辻、穴山、木村、竹下  
勝田  
勝  
三、日程  
4月20日(月)  
8時15分(10番め)大牟田発  
18時10分 都区見学 京都泊  
4月21日(火)  
午前 神奈見学 京都泊  
午後 万国博見学 京都泊  
4月23日(木)  
午前・後 京都見学 京都泊  
午後 横浜マリンタワーで昼食  
工場見学 いすゞ川崎工場  
午後 機械  
電気  
花王石鹼川崎工場

註 20日の京御所は(室)に  
変更の可能性あり。

富重博美、中村るみ、平山卓美、  
平田純一、村上敏幸、矢吹雅行、  
山村研志、渡辺美紀春の諸君と、  
清水先生、吉田先生は私(樋口)、  
である。学生のことはボウボウ  
だつて頭もきれいに手入れされて  
欲しかった。

昭和45年1月1日、大牟田市内

一科室で、工業化学科第回生の  
正博、石原哲由、弥永徳次、上野  
廣喜、龜尾悟、亀田重幸、藤田忠  
佐々木謙一、高木芳草、田中恭一

私は柴田が運営の元で、まあ  
しかった。そのとき、課長さんが  
「有明高専に求人の予定はあります  
が、近傍高専だけ考えてまつて  
」とのことで私はあきらめて離談  
を交わしたのだが、今

私が、

「私が福岡高校勤務の  
むきの教子です、その

九大の応用化学を出  
して貴社に勤めていく…

…」

といひながら、課長さんは

心し、柴田に感謝しながら、

「ごちやも」

「本削いか」

「ふあわいぬ。求人じ」「下かく」

私は即座に佐々木謙一を思へ出  
て、ひいた。「ふあわいぬ。」とも

いひた。

柴田の手紙には「佐

々木謙一君が、私と同

じ職場と同じ仕事をす

ります。彼は大へんハ

シキりした男性で頗るしつこいま

す。同じ職場で先生に教えていた

だいたい人がいることを非常に嫌

うと思つておる、心強いです」

佐々木の手紙には「先生、喜ん

だ下さい。配属が決まりました。

柴田の手紙には「佐

々木謙一君が、私と同

じ職場と同じ仕事をす

ります。彼は大へんハ

シキりした男性で頗るしつこいま

す。同じ職場で先生に教えていた

だいたい人がいることを非常に嫌

うと思つておる、心強いです」

佐々木の手紙には「先生、喜ん

だ下さい。配属が決まりました。

柴田の手紙には「佐

々木謙一君が、私と同

じ職場と同じ仕事をす

ります。彼は大へんハ

シキりした男性で頗るしつこいま

す。同じ職場で先生に教えていた

だいたい人がいることを非常に嫌

うと思つておる、心強いです」

佐々木の手紙には「先生、喜ん

だ下さい。配属が決まりました。

柴田の手紙には「佐

々木謙一君が、私と同

じ職場と同じ仕事をす

ります。彼は大へんハ

シキりした男性で頗るしつこいま

す。同じ職場で先生に教えていた

だいたい人がいることを非常に嫌

うと思つておる、心強いです」

佐々木の手紙には「先生、喜ん

だ下さい。配属が決まりました。

柴田の手紙には「佐

々木謙一君が、私と同

じ職場と同じ仕事をす

ります。彼は大へんハ

シキりした男性で頗るしつこいま

す。同じ職場で先生に教えていた

だいたい人がいることを非常に嫌

うと思つておる、心強いです」

佐々木の手紙には「先生、喜ん

だ下さい。配属が決まりました。

柴田の手紙には「佐

々木謙一君が、私と同

じ職場と同じ仕事をす

ります。彼は大へんハ

シキりした男性で頗るしつこいま

す。同じ職場で先生に教えていた

だいたい人がいることを非常に嫌

うと思つておる、心強いです」

佐々木の手紙には「先生、喜ん

だ下さい。配属が決まりました。

柴田の手紙には「佐

々木謙一君が、私と同

じ職場と同じ仕事をす

ります。彼は大へんハ

シキりした男性で頗るしつこいま

す。同じ職場で先生に教えていた

だいたい人がいることを非常に嫌

うと思つておる、心強いです」

佐々木の手紙には「先生、喜ん

だ下さい。配属が決まりました。

柴田の手紙には「佐

々木謙一君が、私と同

じ職場と同じ仕事をす

ります。彼は大へんハ

シキりした男性で頗るしつこいま

す。同じ職場で先生に教えていた

だいたい人がいることを非常に嫌

うと思つておる、心強いです」

佐々木の手紙には「先生、喜ん

だ下さい。配属が決まりました。

柴田の手紙には「佐

々木謙一君が、私と同

じ職場と同じ仕事をす

ります。彼は大へんハ

シキりした男性で頗るしつこいま

す。同じ職場で先生に教えていた

だいたい人がいることを非常に嫌

うと思つておる、心強いです」

佐々木の手紙には「先生、喜ん

だ下さい。配属が決まりました。

柴田の手紙には「佐

々木謙一君が、私と同

じ職場と同じ仕事をす

ります。彼は大へんハ

シキりした男性で頗るしつこいま

す。同じ職場で先生に教えていた

だいたい人がいることを非常に嫌

うと思つておる、心強いです」

佐々木の手紙には「先生、



